

## クリントン国務長官と拉致被害者家族との懇談



横田早紀江さん

2月17日クリントン国務長官と拉致被害者のご家族との懇談が行われました。ヒル国務次官補も同席しての実施で、むしろ「子供を持つ母親」としての面会であり、被害者家族会や救う会からの要請文は公使による預かりで、直接手渡しはできていません。クリントン長官は「北朝鮮は残酷な国、どう圧力をかけていくか検討したい」、テロ支援国家指定解除も暫定であるかに対しても「調べる」だけであり、具体的なことはなく終了しました。(以下は要請文です)

米国国務長官 ヒラリー・クリントン殿

拝啓 本日は、多忙なスケジュールの中、時間を割いて頂き深く感謝いたします。

北朝鮮による拉致は未解決の国家犯罪であり、われわれは、多くの被害者が今も囚われの身のまま生存していると確信しています。日本人拉致被害者の救出は、もちろん第一義的に日本政府の責任ですが、同盟国である米国のバックアップにも大きな意味があります。

拉致の被害者は日本人にとどまらず、米国永住権をもつ牧師をはじめ、少なくとも12カ国の国民が被害に遭っています。拉致問題の解決には、北朝鮮への国際的な圧力が欠かせません。

この点、米国の前政権が、性急にテロ支援国指定を解除したことには大いに失望させられました。北朝鮮が約束違反を続ける中、解除がもう一度見直される日も遠くないはずと期待しています。あなたのリーダーシップの下、米国新政権が、自由の拡大に向け力強い外交を展開されることを切に希望します。われわれも、すべての拉致被害者の解放とともに、すべての北朝鮮住民が抑圧から解放される日まで全力を尽くす所存です。日頃のたゆまぬ御努力に心から敬意を表します。 敬具

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 代表 飯塚繁雄

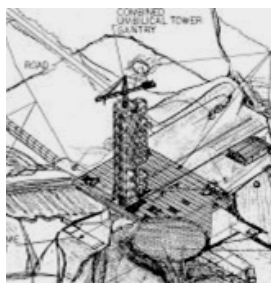
北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会会長 藤野義昭

### ヒラリー国務長官は拉致問題に取り組むのか

今回のヒラリー長官の外遊は国務長官として初めてであり、儀礼的なものとなりました。拉致被害者家族との懇談希望は、大統領候補であったヒラリーさんの外交理念に人道スタンスがあることを示したとは言えません。米国の北朝鮮外交が核廃棄だけでなく人道問題の並列とするか、日本の懸念に対する配慮程度の扱いであり、原則は「核廃棄ならば国交の正常化」という方針だけが表明されています。



### 北朝鮮テポドン2号:2週間程度で発射へ



テポドン発射台  
GSより

北朝鮮の舞水端里ミサイル発射場にテポドン2号の改良型の搬送が完了した模様です。これは国連安全保障理事会決議1718号の一切の弾道ミサイル開発中止に反する行為ですが、北朝鮮側は人工衛星の打ち上げと強弁することで、テポドン2号を今後2週間程度で発射するものと思われます。クリントン国務長官は既に警告を発し、米軍は嘉手納基地に弾道ミサイル監視機コブラボールを展開し、海上自衛隊がEP3、航空自衛隊がYS11Eにより警戒にあたります。北朝鮮は日韓中を訪問中もクリントン国務長官への牽制と今後の対北朝鮮外交を有利に運ぶ狙いがあるとされますが、直接の対米緊張を避けて韓国との全面軍事対決を行っています。

### 北朝鮮向けラジオ放送「しおかぜ」への支援を

郵便振替口座:0016-9-583587 加入者名:特定失踪者問題調査会

救う会  
道南

(北朝鮮に拉致された日本人を救出する道南の会) 代表佐藤健治

〒040-0064 函館市大手町5の10 ニチロビル1階 TEL0138-83-1101 FAX:83-1771

■ホームページ [www.satoukenji.jp/sukuukai\\_dounan/](http://www.satoukenji.jp/sukuukai_dounan/)

■メール: [info@satoukenji.jp](mailto:info@satoukenji.jp)